

テーマ名称	担任者氏名	開講形態	使用言語
日本文学研究	山崎 薫	②	日本語

	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ・Ⅲ
授業概要	平安期日本文学を代表する作品であり、現代においては「世界文学」としても取り上げられる『源氏物語』を軸にして、日本文学に関する基礎知識や享受の問題について学ぶ。 『源氏物語』の中の一つの巻を輪読した後（どの巻を輪読していくかは受講生との相談をもとに決定する）、中世（鎌倉時代以降）から現代に至るまでの国内外での『源氏物語』の享受の諸相を見ていくことで、日本文学や日本文化への理解を深めるとともに、国外からの日本文学に対するまなざしも捉えたい。『源氏物語』をはじめとした古典文学作品の原文も扱うため、受講にあたっては古典文法の基礎知識を有していることが望ましいが、適宜、現代語訳も提示する。 『源氏物語』を通して、文学の持つ「普遍性」と「多様性」について考えてみよう。	ゼミナールⅡ 卒業論文の執筆を見据えて、日本文学を研究するにあたっての基礎知識を学ぶ。 日本文学研究にはさまざまな手法があるため、各自で自身の興味・関心に合致した研究テーマやアプローチを探してほしい。いくつかの先行研究や研究ツールを提示した後、個人（場合によってはグループ）で研究テーマを定め、資料を用いたプレゼンテーションを行ってもらおう。プレゼンテーション後は、全体での質疑応答や討論の時間を設ける。その結果をもとに、卒業論文の完成に向けたより詳細な研究構想を練ってもらいたい。 ゼミナールⅢ ゼミナールⅡを踏まえ、個人で卒業論文の執筆を進めてもらう。適宜、成果の報告や全体での質疑応答・討論の時間を設ける。
授業の到達目標	日本文学に関する基礎知識を習得し、その享受の問題についても考えられるようになる。	ゼミナールⅡ 日本文学に関する研究テーマを定め、テーマに基づいた研究発表を行うことができる。 ゼミナールⅢ 日本文学に関する卒業論文に取り組み、完成させる。
教科書・参考文献	教科書 『常用 源氏物語要覧』（中野幸一 編 武蔵野書院） ISBN 978-4-8386-0439-5 参考文献 授業中に適宜指示する。	各自の研究テーマに合わせて適宜指示する。

成績評価方法 (評価基準・割合)	レポート 50% (期末レポートの内容) 平常点 50% (授業に臨む姿勢や授業中の積極的な発言など)	卒業論文への取り組み 80% (プレゼンテーションの内容、卒業論文の内容) 平常点 20% (授業に臨む姿勢や授業中の積極的な発言など)
備考・関連 URL 等	” Capstone Project” の課題について / “Thesis” のみ指導が可能	” Capstone Project” の課題について / “Thesis” のみ指導が可能